

交換留学報告書

派遣先	
三重大大学での所属学部・研究科	工学研究科博士前期課程
学年(出発時)	M1
大学名	バレンシア工科大学
国	スペイン
留学期間	2025/9/1-2026/7/10
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	授業
13:00	昼食
14:00	授業
15:00	図書館で自習
16:00	図書館で自習
17:00	帰宅
18:00	友人と過ごす
19:00	
20:00	夕食
21:00	帰宅
22:00	家で自習
23:00	家で自習
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Architecture Composition	3	4.5	English	2nd Semesterの水曜日と木曜日に開講され、水曜日は先生による講義、木曜日はグループワークやプレゼンテーションが行われた。レポート課題は主にグループごとに取り組み、建築形態ごとに分類した建築作品を一冊のブックレットにまとめるものであった。試験は記述式で2回実施され、講義で先生が使用したレジュメの内容から出題された。
Project criticism and strategies	3	4.5	English	2nd Semesterの水曜日に開講。概念芸術を重視する芸術家の分析を通して、「アートとは何か」について学生同士でディスカッションを行った。また、グループでコンセプチュアルアーティストを一人選び、その思考や構想そのものを分析し、作品の美しさや技巧ではなく、背後にあるアイデアやコンセプト、時代背景に着目して、現代美術にどのような影響を与えたのかについて発表を行った。 授業内容はかなり高度で、毎回英語で自分の意見を述べる必要があったため、非常に緊張した。しかし学生の意欲や学習環境に大きな刺激を受けた授業であった。
ESPAÑOL II GENERAL(A)B1	3	4.5	Spanish	1st semesterに開講された授業で、入学前にオンラインで受験したスペイン語の能力テストによって振り分けられたクラスであった(スピーキングとリスニング試験はなかったため、正確に学力が測定できていたかは定かではない)。教科書や授業はすべてスペイン語で行われ、予習が必要であり、授業についていくのが精一杯であった。 授業では文法の確認を行うほか、予習した内容について順番に指名されて発表し、グループワークではスペイン語で会話をする必要があった。成績は、文法試験、スピーキングを除く選択式試験、グループ発表によって評価された。また、ライティング課題も課されており、総合的なスペイン語能力の向上を目的とした授業であった。
Architectural Graphic Expression	3	6	English	1st Semesterに開講された授業で、主にCADや編集ソフトを用いたプレゼンボードの効果的な表現方法を学ぶ、建築学生にとって基本的な内容の授業であった。ただし、課題はグループで取り組むため、グループメンバーによって成績が左右される点には注意が必要である。 課題は定期的に出され、同じ建築作品を各グループでプレゼンボードにまとめるという内容であった。授業では、アナログによる製図やダイアグラムの表現方法、モデリング技術、断面図・立面図の表現方法などについて解説が行われ、それらを課題として提出した。留学の目的の一つとして、海外の学生の図面表現技術を学びたいと考えていたため、この授業を通してその目的を達成することができ、大変有意義であった。
English applied to Architecture-B2	3	4.5	English	2nd Semesterに開講された授業であった。日常会話はできても、建築に関するプレゼンテーションをアドリブで行えるほどの語彙力や経験はなかった。しかし、この授業を通して、英語で話すこと(発音や文法の誤りを含めて)への恐怖心はかなり薄れたように感じる。 また、建築英語を学ぶことはもちろん、建築の歴史を改めて学ぶきっかけにもなった。さらに、校外学習ではバレンシアの湾岸部を訪れ、グループごとに都市の様子を分析するなど、都市計画的な視点から学ぶ機会もあり、大変興味深かった。加えて、建築家と施主のロールプレイを動画で撮影し提出する課題もあり、実践的で非常に面白い授業であった。

Project4	4	15	English	通年で行われた授業であり、最も履修してよかった授業の一つでもある。三重大学で行われる設計の授業と比べると課題数は少ないと感じたが、その分、校外学習やスタディに多くの時間を割くことができた。先生が非常にアクティブで、先生が幼少期から暮らしている村にクラス全員で一泊二日の滞在をし、バエリアを食べたり、ハイキングをしたりする機会があった。また、設計課題が与えられると実際に敷地(ペニカシムやアルプフェウ)を訪れ、現地調査を行った後にクラスメートと食事をするなど、授業だけでは得られない多くの思い出をつくることができた。 また、私は数少ないアジア人であり、唯一の日本人でもあったため、先生には特に親身に指導していただいた。エスキースではつたない英語を使いながら相談をしていたが、多いときには1時間ほど時間をかけて丁寧に指導してくださった。先生は時折スペイン語を交えながら授業を進めることもあり、スペイン語能力の向上にもつながった。設計だけでなく現地での経験や先生・クラスメートとの交流を通して多くのことを学ぶことができ、間違いなく履修してよかったと感じる授業であった。
Graphic skills for complex form generation	3	4.5	Spanish	1st Semesterに開講された授業であり、授業はすべてスペイン語で行われたため、内容を理解することは非常に困難であった。しかし授業は先生のスライドに沿って進められるため、難しいながらも何とか理解できる程度であった。授業では毎回モデリングした作品を提出し、最終課題ではグループで一つの作品を設計し、それを実際に模型として制作して先生に提出する必要があった。三重大学には線データから模型の部材を切り出すことのできる機械はないが、UPVにはそのような機械があり、実際に使用することができた点は非常に良い経験となった。また初めて使用するソフトを用いて設計から模型制作まで一貫して行うことで、実践的な技術を身に付けることができた大きな達成感を得られた授業であった。
Urban Planning 3	3	9	English	通年にわたって開講された授業であり、月曜日と水曜日に実施された。月曜日は主に先生による講義、水曜日はグループワークやディスカッション、プレゼンテーションが行われた。授業では、前年の洪水で大きな被害を受けたウティエルを対象とし、災害に強い都市計画を提案する課題に取り組んだ。実際にウティエルを訪れて現地調査を行ったことで、地域の特徴や課題を理解しやすくなり、設計課題のイメージを具体的に持ちながら取り組むことができた。試験はパソコンを使用したオンライン形式で実施され、選択式の問題で構成されていた。

大学のサポート	
チューターの有無	無
チューターのサポート内容	無
語学コースの有無	有(前期のみ履修)
コース名、料金、期間等	スペイン語の授業もあり、入学の際にテストで自動的にコースを振り分けられるが、自分で選択することもできる。

生活	
住居のタイプ	賃貸アパート(オーナーさんと同居)
住居の名前	不明
部屋タイプ	自室 + キッチン、バスルーム、リビングルーム(共用)
ルームメイト(国籍)	オーナー(スペイン人)
室内設備	ベッド、デスク、クローゼット
共用施設	キッチン、リビング、浴室
インターネット設備	Wi-Fi完備
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩40分、自転車20分、バス25分
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	長期学生ビザ
Visa申請先	スペイン大使館領事部
Visa取得にかかった日数	約1カ月
Visa取得にかかった費用	130000円程(健康診断や無犯罪証明書、海外旅行・医療保険、大使館への交通費など)
Visa取得方法、提出書類等	パスポートとそのコピー、ビザ申請書、証明写真、無犯罪証明書(大阪府警で約1カ月で取得。)現地の大学の入学許可証、経済能力を証明する書類、奨学金証明書(三重大学の海外留学支援制度)、スペイン医療保険加入証明書(滞在期間全体をカバー)、航空券予約確認書、住民票の写し、レターバックプラスをもって、東京のスペイン大使館にて申請。学生ビザは郵送にて返却された。
留学先大学の最寄り空港までの経路	パリのシャルルドゴール空港経由のバレンシア着。航空会社はエアフランスを利用した。アパートまでは、知人の友人が空港まで迎えに来てくれていたため、車で移動(電車だと1時間程かかるが、20-30分程で到着することができた)
渡航費用	約17万円(片道)
ピックアップサービスの有無	有

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	有
有る場合、その理由	必要単位の取得が半年で不可能であるため。合わせて修士論文や就活が控えているため。
就職活動開始時期	2026年8月
帰国後の進路	大学院前期課程1年後期から継続

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1€＝183円(変動有)
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	約20万円(ASISA、ジェイアイ傷害火災保険)
学費(教科書代や語学コース授業料等)	約60万円
宿舍費(月額)	375€(約7万円)
光熱費(月額)	宿舍費に込
食費(月額)	約3万円(自炊のみの価格。日本から食品をいくつか持って行っていたため、それよりもかかると思われる)
その他	旅費約120万円(休日を活用して、スペイン各地、ベルギー、オランダ、イタリア、イギリス、ドイツ、フランスへ旅行した)
留学期間中にかかった費用の合計	約320万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

バレンシアには空港があり、到着後の移動や旅行をする上で非常に便利でした。気候は温暖で雨もほとんど降らず、夏の日没は21時過ぎと、とても過ごしやすい環境でした。前年度に大規模な洪水が発生したため心配していましたが、大学周辺に住んでいれば特に問題はありませんでした。一方で、生活スタイルや文化は日本と大きく異なり、生活に慣れるにはかなり時間を要しました。昼食は14時頃、夕食は22時頃であり、シエスタ(14時-17時)の時間帯は一部の店舗を除いて閉まっているなど、日本人にとっては食事時間が非常に遅く、生活リズムの違いに当初は戸惑いました。

大学では、欧米やアジアからの留学生や教員とは英語でコミュニケーションを取ることができますが、日常生活で接する人々には基本的に英語がほとんど通じず苦勞しました。長期滞在に必要な住民登録やTIEカードの申請を市役所で行う際には意思疎通が困難であり、留学当初はスマートフォンの翻訳アプリが手放せない日々が続きました。留学前にある程度スペイン語を勉強していたつもりでしたが、地域によって話すスピードや訛りが異なり、理解することに苦勞しました。特に市役所の申請予約を取ることが難しく、さらに手続き自体の対応も遅かったため、かなり疲弊しました。しかし親切なオーナーさんが市役所まで同行してくださったことや、あきらめずに予約サイトを確認し続けたことで、無事に手続きを終えることができました。可能であれば英語が話せるオーナーさんのもとで生活すること、また手続きの際に同行してくれる方がいれば安心だと思います。食生活については、日本食を多めに持ってきていたことや、現地のご飯がおいしかったこともあり、特に困ることはありませんでした。外食を控えれば、円安の影響はあるものの、日本とほぼ同程度の食費で生活できたと感じました。スペインの大手スーパーマーケットであるメルカドーナは滞在中とてもお世話になりました。留学中、私が特にお世話になったサービスが、レンタサイクルの「バレンビシ(Valenbisi)」です。大学への通学には欠かせない存在でした。このサービスは、30分以上乗ると追加料金がかかるものの、年間約5000円という破格の安さで、期間中は何度でも利用できます。アプリで簡単に自転車のロックを解除でき、使い終わったら近くの駐輪場に返却するだけという手軽さも魅力でした。自転車の空き状況や駐輪場の空きスペースは、随時アプリからリアルタイムで確認できるため、とても重宝しました。もちろん、困ったこともあります。特に朝の9時から12時の時間帯は、近くに自転車がなく利用できなかったり、大学周辺では利用者が多すぎて自転車を停める場所が見つからなかったりすることもありました。それでも、総合的に見て非常に便利なサービスだったと感じています。今でも、バレンシアでの生活を思い出す大切な記憶の一つとなっています。

大学ではスペイン語コースも提供されており、日常生活に困らないよう手厚い支援もありました。コースは主に入学前のオンラインテスト(選択問題)の正答率によって振り分けられますが、実際に授業を受けて自分のレベルに合わないと感じた場合には、変更することも可能でした。授業ではスペイン語のみで会話することが求められ、語学力の向上に大いに役立ちました。しかし、より会話力を高めるためには、スペイン人の友人を作ることが重要だと考え、知人の紹介で日本語とスペイン語の言語交流会に積極的に参加するようになりました。交流の機会を増やしたことで、特にリスニング能力が向上したと感じます。また、他の授業で印象的だったのは「Project4」という建築設計の授業です。三重大学では学期ごとに設計課題がおおよそ2題課されますが、ここでは1学期に1題のみであり、課題の負担は比較的少ないように感じました。しかし、その分課外活動に多くの時間を割き、机上での作業よりも実践的な学びを重視していました。実際に授業では対象敷地であるベニカシムやアルプフェラ、さらに先生のご自宅があるアリカンテ地方を訪れ、現地の人々やクラスメートの交流を深めることができました。先生のご自宅がある地域で一泊したことも大変貴重な経験となりました。こうした活動を通じて、対象敷地と周辺環境を踏まえたコンセプト立案や、ダイアグラムを用いたデザインプロセス、機能性・美しさ・環境配慮のバランス、周辺環境との調和などを、具体的な事例を基に設計へ反映させることができました。さらに先生は、授業の時間が予定を超えた場合でも、一人一人のエスキースに十分な時間を割き、大学の食堂などでも親身に指導してくださいました。先生はデジタルツールを好まず、学生は手書き図面を机に広げて互いに共有するため、刺激を受け合いながら表現手法を学びあえる環境であったと思います。設計課題を数多くこなすことも重要ですが、手描き図面を書きながら何度も案を練り直すことや、日本とは異なる気候環境を前提とした設計に取り組めたことは、大きな刺激となりました。アドリブで自分の設計を発表できるようになり、語学力の面でも成長を実感しました。私自身も普段から手描きのエスキースを通して発想を得ることが多いため、先生の教育方針は自分に非常にあっていたと感じます。最終的な課題の評価も高く、自信につながりました。同じコースであっても、担当する先生によって、模型を用いてスタディを行う場合や、設計課題そのものが異なる場合もあり、授業内容が大きく変わることもこの大学の特徴の一つだと感じました。

その他の授業ではグループワークが多く、学生主体で進められる授業が中心でした。アカデミックな英語で発表することは最後まで苦手で、毎回の授業で緊張していましたが、発音や文法を気にしすぎるよりも自信をもって話すこと、語彙・単語力を身に付けることが重要であると感じました。卒業論文ではヨーロッパの集合住宅における中間領域(バルコニーやベランダのデザイン手法)について分析を行ったため、休日を利用してOMA、MVRDVなどモダンデザインで有名なオランダや、バウハウスやタウトの集合住宅で知られるドイツなどを訪れ、現地見学を行いました。また、図書館で図面を収集するなど、研究資料の収集にも取り組みました。大学で履修した形態論の授業は、試験対策だけでなく、現代建築史を学ぶ上でも大いに役立ちました。

今後の建築分野に活かせる知識(建築史、建築設計、都市計画、グラフィックススキル、形態論)を身に付けるとともに、修士論文に活かせるであろう資料を収集することができました。また、以前から興味があった美術史についても、美術館や博物館、教会に展示されている祭壇画を実際に鑑賞することで、知識を深めることができました。さらに美術館や博物館では、動線や展示空間を意識しながら見学し、建築様式にも着目して、建築に関する理解をより深めることができたと感じています。

今後留学する人へのアドバイス

基本的に大学では英語で会話しますが、この大学に留学する場合、日常生活ではスペイン語を使う機会も多いため、スペイン語もある程度勉強してから渡航することをおすすめします。また大学の授業だけでも十分に語学力向上は期待できますが、三重大学のように同級生・同じ専攻の学生が必ずしも同じ授業を履修するわけではなく、授業が重なることが少ないため、私は留学当初、友達を作ることに苦労しました。私は参加しませんでした。UPVでは日本人・韓国人留学生と現地学生が交流できるワークショップも開催されているようなので、参加することをおすすめします。私は学外の言語交流会で友達を作り、その友達の家に招いてもらったり、郊外の村に訪れたりすることで、スペインのコミュニティにより深く溶け込むことができたと感じています。

さらに自分が身に付けたい語学力に応じて、アパートの環境を選ぶことも大切だと思います。私はスペイン語しか話せないオーナーさんと二人で生活していました。普段の生活で英語を使うことができなかったため、そのオーナーさんと意思疎通を図る際には苦労もありました。しかし、スペイン語を学ぶには非常に恵まれた環境だったと思います。一方で、私のように英語力を向上させたい人にとっては、大学や交流会に積極的に参加しなければ英語を話す機会がほとんどないため、物足りなく感じるかもしれません。ところで私が住んでいたアパートの自室には冷暖房設備がなく(リビングにはありました)、冬の寒さや夏の暑さはかなり厳しかったため、アパートを決める際には設備をよく確認することをおすすめします。

報告書記入日

2026年8月2日